

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 387 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.01.28 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1012 部\*\*\*\*\*

---

□ 目 次 □-----

<巻頭言>

TPP 参加 (USA 傘下) で日本は食料主権“くに”を失っていいのか？

塩谷哲夫

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> 世界主義からローカル主義へ

---

<巻頭言>

TPP 参加 (USA 傘下) で日本は食料主権“くに”を失っていいのか？

---

1月14日、TPP 対策事業費を含んだ 2015 年度補正予算が自民・公明の策動で成立した。日本としてはまだ国会批准さえしていない。それなのに、どうして 2015 年度の補正予算で TPP 対応のお金を付けるのか？

理由は見えて透いている。TPP は日本の農業・農村に余りにも大きな打撃を与える内容なので、そこを攻められたら安倍政権は持たない。そもそも TPP 交渉で「日本農業の重要 5 品目には手を付けさせない」という自らの約束を反故にしている。そこで、大金をばらまいて農業・農村関係の批判・反対の声を封じ込めて、参議院選挙での票をつなぎとめ、あわよくば改憲可能となる票をかすめ取ろうというのだろう。WTO (世界貿易機関) ウルグアイラウンドで米 (MA 米) の輸入を認めた時もそれで奏功した。原発立地・再稼働、沖縄への基地押し付け...どれもこれも札東でケリをつけた (国民?...はそれを許してきた)。

大方のメディアは TPP 賛成であり、「日本農業にとってその影響は大したこ

とはない。むしろ日本の高品質農産物の輸出拡大のチャンスだ。“強い農業”を育てよう」と、キャンペーンを張っている。本当にそうだろうか。金勘定ではなく、国民生活・国家経営の問題として、しっかり分析してもらいたい。

ところで、TPPは国際的にはまだ「大筋合意」したに過ぎない。TPP主導国のアメリカにおいては、オバマ大統領の早期批准の訴えに対して、共和党はもとより、政権与党内からさえ反発の声が上がり、大統領選挙前の決着は難しいと言われている。その他の参加国の動きはほとんど報道されていないので私たち国民はわかりようもない。

15日の朝日新聞の記事によると、TPPのように限定された国家間の貿易契約ではなく、世界の大多数の国が参加するWTOの貿易自由化交渉（ドーハ・ラウンド）は、先進国と途上国対が対立していて、交渉が行き詰まっているらしい。その理由をはっきりしている。先進国（輸出大国）の自由化要求に対して、「経済成長が遅れている途上国」側が、「国内産業を守るための措置を十分に認めよ」と主張していることである。

私には途上国の主張は納得できる。ここで譲ったら、農産物に限らず（多くの先進国は農産大国である）自国市場、国民生活が先進国産品の食べ物にされて、自国での生産（農も工鉦も）を発展させる道が閉ざされてしまうからである。つまり、国家ぐるみ外貨に支配されて、丸ごと“難民化”されてしまう危険があるからである。経済の専門家でなくてもこれぐらいのことは私にでもわかる。だまされしないで頑張っている途上国は立派だと思う。

それに引き換え...日本は。今でさえ既に食料の60%（カロリーベース）を他国に頼っているのに、TPP参加（実はUSA傘下）で日本の農民・農地による農業生産を成り立たなくして90%余も輸入農産物に支配されてしまったら、独立国としての“食料主権”を失ってしまう。こんなことでは、恥ずかしい...では済まない。亡国TPP参加は即刻止めさせよう。（2016/01/22記）

付

TPP調印式を2月4日にニュージーランドで行い、米国等はこれで「大筋合意」を『合意』とするつもりのようなのである。本日（27日）、日本政府はこの調印式に甘利大臣を派遣する方針を言明した。甘利氏は大臣・国会議員としてあるまじき職権乱用・金銭授受の疑惑の最中にある人物である。これでTPP交渉での日本政府のいい加減さが改めて国際的に追認され、また、日本国民も同じレベ

ルだと思われてしまう。私には許せない。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大名誉教授

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.136』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

誰のための被災地復興かを改めて問う◎渡邊 博

[第 150 回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

II 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開◎重岡 徹

[第 151 回定例研究会] 「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

解題：農業生産現場から見た「食料・農業・農村基本計画」◎小泉浩郎

I 新「基本計画」と農政転換◎森島 賢

II EU の農政改革と農村◎市田知子

参加者の声—地域の土地と農を守る◎人見みみ子／山崎繁雄／佐々木哲美

[特別寄稿]

・惨事便乗型資本主義の行方は何か？

—格差拡大、戦争経済、独裁ガバナンスの道をひた走る日本◎西川 潤

・都会人よ、田舎へ大移動を！◎長谷川 浩

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(7)

続・百姓仕事の精神性—天地観を取り戻す道／宇根 豊

---

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

---

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は [yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org) までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市  
酪農・教育ファーム・レストラン 人見みみ子さん  
(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を  
埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)  
No.2 世羅高原のそよ風になりたい  
広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)  
No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい  
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)  
No.4 働きやすい作業環境の改善  
徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)  
No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い  
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)  
No.6 デパートに進出した農村女性  
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)  
No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる  
群馬県嬬恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)  
No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ  
栃木県那須塩原市 人見みみ子さん (阿久津加居聞き書き)

---

<編集後記> グローバリズムからローカリズムへ

---

当たり前の日常がある日突然、ひっくり返される。しかしそれは「突然」ではなく、「地ならし」がそれ相応に行なわれている。そのことを作家の辺見庸はこう言う。

「安保法制なんて、周辺事態法を成立させてしまった 1999 年から決まりきったことじゃないですか。日本が攻撃を直接受けていなくても、『有事』には米軍に物資輸送などの支援を可能にする法律です。あのときはいまの何倍も『これはやばいな』と焦りました。ぼくらが常識として持っていた戦後の民主主義、あるいは平和的な時間の連続といったものに、はっきりと割れ目が入った。この割れ目は広がるに違いないと直感しました。その後は、もう既定の事実です」(朝日新聞デジタル「インタビュー：時流に抗う」2016/01/21)

本日 (01/27)、政府は 2 月 4 日にニュージーランドで行われる TPP の署名式に、甘利経済再生担当相を予定通り派遣する方針を明らかにした。英文で 2000 頁にのぼるといふ TPP の全文はようやく公表されたものの、その全文訳についてはいまだ整備されていない。内容の理解が不十分なまま、国会での議論もまともにおこなわれぬまま署名しようというのだ。その一方で「対策予算」の数字が躍る。こんなバカな話はあるだろうか。

しかしこのうごきにもまた一連の「地ならし」があったといえないか。食糧自給の放棄、その起源をたどれば、1954 年の MSA 協定によるアメリカからの余剰小麦の輸入までさかのぼれるのかもしれない。小麦・大豆・トウモロコシといった米以外の穀物は輸入に依存するとした 1961 年の農業基本法も、ぐっと時代を下れば 1994 年の GATT ウルグアイラウンド合意によるミニマム・アクセス米の輸入なども、いまに至る「地ならし」といえるだろう。

前号で「時代はよくなっている」と書いたものの、こうした「ニュース」にふれると暗鬱とした気分になる。しかしこうはいえないか。

国際経済だとか国際政治だとかといったように、グローバルこそが価値があるという視点にたち、グローバルに解決しようとするからことの本質が見えてこないのだと。ピークオイル(石油生産の頭打ちが不可避であること)や市場の先細り(ラストフロンティアとしてのアフリカ!)、激化するさまざまな環境問題(大気・水汚染や異常気象)など、グローバル資本主義は限界にきている。その前提にたつてものごとを見る必要があるのだと。

わたしたちは、ローカルな、自分たちで責任をもてる世界の再創造からはじめるべきなのだ。蹂躪されつづけた郷土を、まちやむらをつくりなおすことから、そこでの自然をふくめたさまざまな関係を取り戻すことから始めるべきなのだ。そしてそのことは、「地ならし」の背後で、なんとか維持されてきた――

ものによっては痕跡しか残っていないかもしれないが——言葉本来の意味での  
伝統を再発見し、取り戻すことにつながるのではないか。

そう考えたとき、たしかに一方で時代はほんとうに危ういのだけれども、どこ  
にまなざしを向ければ未来が切り拓けるかははっきりしているのではないだろ  
うか。

付

農文協編『農文協ブックレット TPP 反対は次世代への責任』は TPP 問題につい  
て再考するうえでたいへん参考になる。一読をすすめたい。

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540151983>

金子 勝 TPP「大筋合意」は日本の長期衰退を加速させる

内山 節 普遍主義の時代の終焉という文脈で読むべき TPP 問題

孫崎 享 ISDS 条項で主権を売り渡す TPP

安富 歩 なぜ自民党は田舎を切り捨てることにしたのか

広井良典 どのような社会を目指すのか

——アメリカ・モデル/アメリカ信仰からの脱却を

ほか

2016年01月27日

山崎農業研究所会員・田口 均

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575 円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 – グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 388 号の締め切りは 02 月 08 日、発行は 02 月 11 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 387 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.01.28（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*